SóP
Sibata Orange Press
シバタ オレンジ プレス ■毎月25日発行 vol.58
特集 しばた「こども食堂」にぎわう
「しばた」を知って楽しみ、「新しいしばた」の町をつくる新聞
平成28年10月25日号
発行所／(有)アミックス
〒957-0018 新発田市緑町2-6-45-7号棟
tel 0254-20-7841 fax 0254-20-7851 http://sop-web.com

高橋農園(新発田市横山1314) TEL.0254-29-2287
http://takahashinouen.com/
手作りジャムやジュース販売中！
しばた健幸ファーム 検索

新県知事に米山隆一氏、県政の舵取りやいかに

任期満了に伴う第20回新潟県知事選は10月16日(日)の選挙で共産・自由・社民が推薦する新人米山隆一氏(49)が約52万8千票を獲得して初当選した。次点は約6万3千票差で自民・公明が推薦した森民夫氏(67)、独自の戦いを展開した後藤浩昌氏(55)、三村誉一氏(70)は大きく水をあけられた。

複雑な経緯と相関関係。当初は分かりにくい構図

選挙戦は実質、前知事の泉田裕彦氏が2月26日(金)の県議会2月定例会で出馬を表明して火ぶたが切られた。泉田裕彦氏は自民・公明の後押しで初当選したが、北陸新幹線問題や原発再稼働を巡って国と対立してパイプを失いかけていた上、今年に入り福祉・医療の法定4計画の未策定問題や日本海横断航路問題が浮上して厳しい批判を招いていた。さらに県市長会は7月に県と基礎自治体間の風通しの悪さなどを指摘した検証をまとめて泉田前知事に回答を求めた。しかし、ここでもすれ違いの状態は続いて、業を煮やした市長村長有志は市長会会長を務める森民夫前長岡市長に出馬を要請し、森民夫前長岡市長は8月10日(水)に知事選出馬を表明した。これで今回の県知事選は4選を目指す泉田前知事と「県政に信頼を取り戻し、国・近隣県・県内市町村と連携して政策を実現する」とした森民夫前長岡市長の事実上の一騎打ちが確定したように見えた。

泉田前県知事、突然の撤退表明。知事選の前途は見渡せず混迷する

ところが、8月30日(火)の夜に突如、泉田前知事が出馬断念を表明した。理由に関しては新潟日報紙の報道をその一因に挙げ、「新潟県の環境、とくに原子力防災に対する議論は私が訴えるよりも、別な形で議論された方がいいと語った。撤退の理由は政党からの支持が得られていないことや市町村長とのあつれきなど、様々な憶測が飛んだが、真実は未だ闇に包まれている。

先の参議院選挙で野党協力が実を結んでわずか2千票差で自民・公明推薦候補に勝利した民進・共産・自由・社民は独自候補の擁立を模索したが遅々として進まず、民進党は独自候補の擁立を断念して自由投票とした。これを受けて民進の支持母体の連合は森民夫前長岡市長の支持を表明した。「ねじれ」である。

ところが、共産・自由・社民と市民団体は独自候補の擁立を諦めず、選挙まで1カ月を切った9月23日(金)に民進党を離党した米山隆一前民進党衆院新潟5区総支部長を擁立した。米山氏は出馬会見で「新潟県の新しいリーダーとして、県民の命と財産を守り、子どもたちの未来のため、ふるさと新潟のためにこの身をささげたい」と抱負を語った。ここで、泉田前知事の路線継承か、改革かの構図が明確になった。自公の推薦を受ける森民夫氏か、共産・自由・社民と市民団体の推薦を受ける米山隆一氏か。投票日までわずか23日間である。

県政の隘路解決を主張する森候補に対し、米山候補は原発再稼働問題に絞り込む

選挙戦は前半、森民夫候補が先行した。医師会や業界団体、市長会・町村会、自民・公明の推薦を受けて盤石に見えた。しかし、夏の参議院選挙の疲れもあってか、自民党員の動きは鈍かった。業界団体を集めての演説会を頻繁に行ったものの、地道なローラーなどは行われず、選挙戦は上滑りして浮動票層はもちろん、支持政党の自民党の支持も固めきれなかった。出口調査によれば自民党支持者の75％しかまとめきれていない。従来型の業界選挙の限界を示したとも言える。後半、投票率44％以上で米山候補勝利との世論調査結果に危機感をもった党本部は二階俊博幹事長や古屋圭司選対本部長などが頻繁に新潟入りして、あたかも自民党本部による直営選挙だったが、最後まで挽回できなかった。

戦術としても、泉田県政検証と市町村長などから聴取した課題を「67の公約」にまとめて発表した。非常に具体的で実効性もあると考えられたが、あまりにも多岐にわたったため浸透させるのが難しかった。

一方、共産・自由・社民と市民団体からなる米山隆一陣営はていねいなローラーを繰り返すなど、「原発再稼働反対」を旗印にして、有権者一人ひとりを説得して回った。選挙最終盤には民進党代表の蓮舫氏や自由投票を組織決定していた新潟県の民進党代表の黒岩宇洋衆議院議員もマイクを持って街頭演説に加わった(なお、黒岩議員は混乱の責任を取って選挙後、代表を辞任した)。選挙戦当初は「福島の検証失くして柏崎の再稼働は論じられない」と泉田前知事の立場を継承していた米山隆一候補も選挙戦後半には「現時点で原発を稼働させるとは言えない」と微妙な表現ながらかなり踏み込んで原発問題の単一争点化に持ち込むことに成功した。選挙戦は「米山か森か」と人を選ぶのではなく、「原発再可動か否か」の住民投票の様相を呈した。

元気のない新潟県の課題克服のために国・近隣県・自治体と緊密な連携を

新知事の選挙公約を振り返る。①福島原発の検証なしに原発再稼働の議論は出来ない。②TPPから新潟の農業を守る。③教育、子育て支援、医療、介護、福祉、人への投資を最優先。④対話型の県政で「日本海側の表玄関 新潟」を創ろう。以上、4つである。①は条件が整えば議論すると取れるあいまいさが残り、②③④については、具体的に何をするのか、まったく分からない。②では、どうやって守るのかその手法が示されていないし、③④は森候補と同様の公約であるものの実際何をやるのか示されていない。

原発問題は極めて重要な課題であることは言うまでもない。しかし、新潟日報の世論調査の結果では県政の課題の第一は「医療・介護・福祉」で次に「景気・雇用対策」、「原発対応」は第3位である。

泉田前知事が積み残した課題は多い。経産省出身の泉田氏は「金の卵を産む鶏を育てる」産業は福祉の糧」として県政の課題の第一として産業振興を挙げた。融資の利子補助制度の導入などで成果も挙げたが、「製造業付加価値額」は就任時の2004年の約1兆9千億円と比較して2014年では約1兆6千億円と10％以上減少した。米産出額は約2千300億円が1千400億円と激減した。国際線利用者数は25万人から14万人に減った。全国的には外国人訪日観光客が驚異的な伸びを示す中、新潟県は置いてけぼりである。日沿道は未だ山形までつながらず、羽越線・白新線の高速化のめどはまったく立っていない。

人口は2004年10月で約244万8千人だったのが2015年8月では228万9千人とこちらも10％近く減少した。

医師・看護師、保育士、介護士の不足は目を覆うばかりである。10万人当たりの医師数は179人から201人に増えたものの、充足数は全国38位から43位に転落した。これらの課題に待ったなしで取り組まなければならない。そのため、森民夫候補も主張していたが、国・近隣県・市町村との連携は欠かせない。議会との議論も深めなければならない。米山新知事の手腕に期待する。

コラム

スポーツで稼ぐ

五十公野球場で6大学戦

▼「スポーツが経済・地域を活性化させると我々は信じる。文科省時代は考えられなかったが、スポーツでお金をもうけようじゃないですか」▼9月28日(水)、スポーツ庁長官の鈴木大地氏は早稲田大学の講演で語った。スポーツツーリズムの推奨である▼スポーツ庁は「稼げる」アリーナ等の整備を支援し、巨大な収益を上げている全米大学体育協会をならって同様の組織を創設する。今後10年間でスポーツの市場規模を3倍にする目標も掲げた▼五十公野地区には体育館・陸上競技場・野球場・サッカー(ラグビー)場・テニス場・プールが集中的に整備され、芝生公園や升潟と一体となってにぎわっている。宿泊施設もあり、食事もできる。この設備を活かさない手はない▼岩手県紫波町では再開発したJR紫波中央駅裏にサッカー場2面を整備し県サッカー協会を誘致、図書館・子どもセンター・直売所・レストランの複合施設を建設し、年間100万人の集客を達成した。そして、今度は同敷地にバレーボール専用体育館を建設して全日本女子の合宿誘致に成功。集客200万人は目前だ▼五十公野の体育施設で足りないのは「屋根付グラウンド」だけである。「屋根付グラウンド」があれば大学やプロ2軍の合宿は可能だとNPB関係者は太鼓判を押した▼市は公共施設の再編を計画している。不必要な施設は廃止、必要な施設は統合し、「お金を稼げる」施設は思い切って新設すべきだ。

しばた「こども食堂」ににぎやかな笑い声。新発田方式は「バラエティ豊かな美味しさ」

今年設立された市民団体「フードバンクしばた」(代表・佐藤哲也さん)が、ユニークな「こども食堂」を主催して好評である。「フードバンク」はもともと、生活困窮者に対して篤志者から寄贈してもらった食材を届けるボランティア活動であった。1960年代のアメリカの「スープキッチン」に端を発して、日本では2002年に上智大学の学生である元軍人、チャールズ・マクジルトンが始めたとされている。当時は団体の名称にちなんで「セカンドハーベスト」とも呼ばれていた。次第に所得格差が広がり食事に事欠く人が多数存在する一方、日本ではまだ食べることのできる食材が年間で500~800万トンも廃棄されているのが現状であり、その間をつなぐ活動として注目されているのである。

運動用具が買えない子どもに援助、経済的に困っている人に食材を届ける

「フードバンクしばた」設立のきっかけを事務局の土田雅穂さんに聞いた。

「私がトライ夢(誰もがスポーツに親しめる環境づくりを目指し、さまざまなスポーツ教室や講習会を開催するNPO法人)に勤めていたときでしたが、子どもたちの家庭が経済的に困っていると、スポーツが出来ないという現実を目にしました。道具もユニフォームも買えないし、遠征も出来ない。それを何とかしたい、と。そんなところに『フードバンク』という話が出てきて、あっこれ一緒にやれないかな、というのが最初だったんです」。

子どもの相対的貧困率は全国で見ると約16%、6人に1人にのぼり、新発田市でも大きな問題になっている。そこで土田さんは食べ物を届けること以外に「特に子どもを何とかしたい」と思ったという。単に「経済的理由」だけでなく「親の忙しさ」「親の病気」など、様々な事情が原因となり、十分な食事をとることが出来ず、例えば夏休みが終わると何kgも痩せて登校する児童の事例が全国で報告されている。「その子はおそらく給食が主な栄養源になっていたのでしょうね。そういう子を出さないためにもまず、夏休みに『こども食堂』をやることにしたんです」。

8月30日(火)のメニュー。巻き寿司、ミニピザ、カップサラダ、かぼちゃグラタン、かぼちゃスープほか

こども食堂は夏休みの間、7月25日~8月末まで、お盆期間を除いて約30人、延べ233人のボランティアの協力を得て、週4回延べ18回実施した。食事を食べに来た参加者は子ども236人、大人112人、延べ348人だった。市議会議員等の視察も2回行われた。

10月22日(土)のこども食堂の様子(長徳寺)

開催場所は大栄町の長徳寺庫裏と緑町・本丸中学校正門前の多田さん宅の2階の2か所。可愛らしい看板が目印だ。ともにキッチンがあるので使い勝手はいい。なぜ2か所かというと、土田さんは「子どもは一人では学区外へ出てはいけない規則があるんです。本当は市内22学区すべてで出来ればいいんですけど、そんなちからはまだまだありませんので、とりあえず我々の現状で精一杯の2学区でやってみました。どうしても必要なら私が車で子どもを迎えに行きます。1回平均13人以上の子どもたちがきてくれました」と手応えを感じている。

こだわりは美味しい料理と楽しい雰囲気づくり

土田さんにはこだわりがある。「とりあえず食べさせればいい、というわけじゃないんです。まず食事が楽しい、そしていろんな食べ物や料理があることも、子どもたちに調理ボランティアさんが楽しみながら知ってほしいだから、メニューは毎回違うんです。素晴らしいボランティアさんと新鮮な食材を持ち寄ってくださる方、そしてお金を寄付して下さる方、いただいた食材だけでは運営できません。お肉も魚も足りないものは買わなくてはいけませんし、調理器具・食器・洗剤、冷蔵庫も必要です。倉庫も必要ですし移動のためのガソリン代も必要です。なんとか運営できているのは、本当に皆さんのお陰です」と感謝する。

料理は長徳寺と多田さん宅でそれぞれリーダーを決め、メニュー決めをしている。ただし、その日に食材を持ってくる人もいて、急遽メニューが増えることもある。

10月22日(土)フードドライブで食材を受け付ける土田さん(右)とスタッフ(カルチャーセンター・ボランティアフェスティバルにて)

こどもたちの味覚は大人になっても残る。いろんな人が作るから味付けもいろいろ

やっていることが、料理の質の高さを保ちつつ、継続につながっているようだ。「夏休み中は簡単に作られるカレーとかは作りませんでした。子どもの味覚とかは大人になっても残るのでなるべくいろんな料理を作りました。10月は『当地グルメです』と調理リーダー。ちなみに11月5日(土)の長徳

蟻塚税務会計事務所 新発田市大栄町7-1-6 TEL.0254-23-2222
茨木建設㈱ 新発田市長畑284-1 TEL.0254-23-6851
飯豊電設工業㈱ 新発田市豊町2-18-5 TEL.0254-24-2134
新発田ニューープラザホテル 新発田市諏訪町1-9-29 TEL.0254-26-3131
㈱伊藤組 新発田市島潟1273-1 TEL.0254-22-4176
新発田建設㈱ 新発田市富塚1942 TEL.0254-27-5711
㈱イノウエ 新発田市新栄町1-3-2 TEL.0254-22-4056
島津印刷㈱ 新発田市富塚1419 TEL.0254-27-2101
㈱岩村組 新発田市大手町4-3-21 TEL.0254-20-5550
㈱新和組 新発田市米倉1287 TEL.0254-28-5011
SODデザイン 高橋智志 新発田市新富町1-1-3ストライプビル2階 TEL.0254-24-5121
大進電業㈱ 新発田市佐々木1895-9 TEL.0254-21-5000
小野寺税務会計事務所 新発田市大栄町2-7-7 TEL.0254-22-3497
㈱大通 新発田市舟入町1-12-5 TEL.0254-26-1191
㈱下越道路 新発田市新富町1-1-5 TEL.0254-23-2296
新潟ファームサービス㈱ 新発田市五十公野4104-1 TEL.0254-20-3828
㈲クサカベモータース 新発田市五十公野4836 TEL.0254-22-6311
フジマ舗道㈱ 新発田市島潟4197-3 TEL.0254-26-5030
㈱こじまホールディングス 新発田市中央町3-5-12 TEL.0254-26-3381
扶桑畜産㈲ 新発田市米倉字鳥越4666-1 TEL.0254-28-5136
小林税務会計事務所 新発田市中央町5-4-27 TEL.0254-22-2705
山田建設㈱ 新発田市大友3856 TEL.0254-25-0700
小柳産業㈱ 新発田市八幡新田416 TEL.0254-22-7010
㈱安田組 新発田市豊町4-3-39 TEL.0254-24-1761

介護老人福祉施設 陽だまり苑 新発田市岡田1746-1 TEL.0254-20-3800
㈱オオヌマ 新発田市五十公野3969 TEL.0254-22-2223
複合型福祉施設 コンフィ陽だまり苑 新発田市諏訪町1-10-38 TEL.0254-24-1111
㈱ワゴードライ 新発田市佐々木3445 TEL.0254-27-2261

単品メニュー/パエリアほか多数ご用意しております。
ドリンクメニュー/スペイン産ワインほか、多数ご用意しております。

レストラン4丁目
住/新発田市住吉町4-14-26 ☎0254-28-8822
営/ランチ11:30~13:30(L.O) ディナー17:30~20:30(L.O)
休/火曜日 収/26席(個室10席) P/専用15台

Lunch A(税込1,200円)
タパス(オードブル)盛り合わせ/アロス(お米料理)①塩だらとジャガイモのオジャ ②豚ホホ肉ときのこのオジャ ③かぶのお野菜のオジャ、以上3品から1品をお選び下さい。/パン/デザートの盛り合わせ/食後のお飲み物①コーヒー②紅茶 ③ハーブティ、以上3品から1品をお選び下さい。

B(税込1,800円)
Aランチにメインが付きます。メイン①本日のお魚料理 ②本日のお肉料理、以上2点からお選びください。

Dinner A(税別2,500円)
ピンチョス(先付)/前菜/本日のお米料理/パン/デザート盛り合わせ/食後のお飲み物

B(税別3,500円)
ピンチョス(先付)/前菜/本日のメイン料理/本日のお米料理/パン/デザート盛り合わせ/食後のお飲み物

C(税別5,500円)
ピンチョス(先付)/前菜2品/本日のメイン料理2品/本日のお米料理/パン/デザート2品/食後のお飲み物

寺メニュー予定は「ごはん・芋煮・信田煮・かぶときゅうりの浅漬け」、11月6日(日)の多田さん宅2階のメニュー予定は「栗おこわ・柿なます・こにもん・アスパラの青じそ和え」である。ただし「あまり手を掛けすぎると、作る方が疲れて続かなくなると困りますし…」と手さぐりの部分もある。

10月からは給食のない土日に「こども食堂」を再開した。年内は12月18日(日)までメニューも決まっていて、大栄町の長徳寺庫裏では毎週土曜日、緑町の多田さん宅2階では毎週日曜日の11～14時の開催で、食事はおおむね12時からだ。食事時間以外はお寺を走り回ったり、絵本を読んだり、子どもたち同士でじゃれ合ったりして遊んでいる。参加費は子ども は無料、大人は300円で、誰でも参加できる。食物アレルギーのある人は事前に事務局の土田雅穂さん（090・3047・8732）に申し出ておくことが決まりだ。

「食材は趣旨に賛同して下さる方が持ち寄ってくれます。本当にありがたく思っています。時節柄、お米は十分に集まっていますが、野菜などは季節によってないこともありますので、お金もかかります。これが思ったよりずっとかかるんで大変です。食品の提供、お金の寄付、ボランティアさん、いつでも募集中」という土田さん。約10人の方に定期的に、しかも場合によっては週に2回も食材を届けるなど、本来のフードバンクの仕事もあり、八面六臂の活躍だが、すべての活動はボランティアに支えられている。「この活動を始めて、新発田の人の温かさに改めて気づきました」と再び感謝することしきりである。

「しばたフードバンク」および「こども食堂」へのお問い合わせは土田雅穂さん（090・3047・8732）まで。

8月1日（月）のメニュー。パスタ、煮込みハンバーグ、合鴨マリネ、お味噌汁、夏野菜など

8月26日（金）のデザート。この日はプロの料理人がボランティアに来てくれた

長徳寺庫裏横の台所

市島邸資料館、新装オープン

近代文化史における市島家の果たした役割などを浮かび上がらせる展示とした。新たに発見された資料、初めて展示する資料も多数ある。

＊

展示は3室に分かれ、1室は市島家そのもの、宗家と分家の資料である。丹波市鴫から移住し千町歩地主と呼ばれるまでの軌跡

天王の市島邸資料館が漏電火災のために昨年一部焼失した。その後慎重に修復が進められ、10月1日(土)にリニューアルオープンした。

改修に当たっては、「市島家」の研究家であり、早稲田大学戸塚図書館課長の藤原秀之さんの監修を受けて、これまで希薄だった中央と市島家のつながり、とくに日本の

市島邸／新発田市天王1563／水曜（祝日の場合翌日）休／大人600円・小中300円

が分かりやすく展示されている。宗家と分家でそれぞれ独立採算ながら合議制で「市島家」を経営する。現代でいえば事業部制である。展示で興味深いのは「蒲原絵図」（越後絵図のうち）である。当時の様子が分かる。

2室では「市島家」の繁栄の基盤と千町歩地主時代に交流のあった文化人の書画などの文化資料が展示されている。「光琳百図」（尾形光琳）、「千鮭図」（酒井抱一）、さらに金蒔絵の重箱や盃洗、螺鈿の飯椀、永楽造の食器など、その華やかさに目を奪われる。

特筆すべきは「市島家」の行った飢饉対策である。米蔵の開放はもちろん土木事業の実施による救民（継志園記拓本）により、「市島家」がセーフティネット、社会福祉的な役割を果たしていたことが分かる。

明治の学問・文化の礎は市島家の援助で造られた

3室では「市島家」が明治時代以降に行った事業のうち、特に文化事業に絞った展示が行われている。分家（角市市島家）である市島春城の求めにより、大隈重信率いる自由民権運動や早稲田大学設立の資金援助をした。

市島春城は初代の早稲田大学図書館長で、日本図書館協会を創設し、英国から司書制度も導入した人で、いわば日本の「図書館の父」である。図書資料の収集公開だけでなく、自ら「国書刊行会」を設立し、未刊の江戸時代以前の稀覯本を刊行した。活字である

から誰でも読めて、現代の研究者も利用している。もう一つ「大日本文芸協会」の理事長に就任し、西欧の研究書の翻訳出版を行った。これで日本語による西洋文化研究は飛躍的に進んだ。

また、「市島家」が育てた学者としてはまず保田出身の吉田東伍がいる。東伍は市島春城の庇護により一生をかけて『大日本地名辞典』を編纂した。今でも地名研究になくてはならない辞書である。

もう一人、忘れてならない諸橋轍二を育てたのも市島春城である。諸橋は『大日本漢和辞典』を編纂した。漢字だけでなく漢学に対する知識を得るために欠かせない重要な書籍である。

「市島家」が春城、吉田、諸橋の仕事に資金援助をしたことは言うまでもない。「市島家」は東京の別荘に「市島塾（寄宿舎）」を開き、これら若者たちを無償で育てたのである。

＊

「市島家」は蓄えた財力を社会福祉事業と学問・文化育成に再投資したのである。

＊堀部安兵衛ファン待望の出版＊

武庸会百周年記念誌

◆堀部安兵衛略伝
◆堀部安兵衛武庸家系図
◆堀部安兵衛の家紋
◆武庸会百年の歩み
◆中山家と長徳寺
◆義士堂の木像とその由来
◆義士堂の天井画
◆芸能にみる安兵衛と忠臣蔵
◆元禄赤穂事件　◆安兵衛観光マップ
◆安兵衛文庫　◆堀部安兵衛資料など

堀部安兵衛を楽しむための基本資料！

新発田人なら一家に一冊

頒布価 1000円

A4・オールカラー・84頁　頒布所：新発田市観光協会
新発田市中央町3-7-2　TEL.0254(26)6789

定住自立圏協定に調印

新発田市・胎内市・聖籠町

新発田市・胎内市・聖籠町は、10月5日（水）、イクネスしばたで、相互に連携し、足りない部分を分担しつつ補い合って行政が住民サービスを提供し、人口の転出防止と定着を図ることを目的とした「定住自立圏協定」に調印した。

新発田市・二階堂市長は「一つのまちの明かりは小さくとも市町の枠を超えてお互いの良さを尊重して調和を図りつつ協力し、キラリと光る地域づくり、未来の子どもたちに誇れる地域づくりを進めたい。広域行政ですでに実績がありますが、一部事務であります。共同事業などでもう一歩進めて連携したい」、胎内市・吉田和夫市長は「人口減少対策は喫緊の課題であります。4～5年前から阿賀北の市町村で連絡協議会を作ってきましたが、県全体でも定住自立圏構想は必要です。県にも協力を強く訴えながら、この構想を進めていきたい」、聖籠町・渡辺廣吉町長は「もとよりこの地域は二市北蒲といわれてきて、結び付きは強かった。その中で今回3市町がまとまる意義はとても大きい。それぞれの歴史と文化、風土の魅力を生かしながら、新発田市を中心にして互いに知恵を出しながら、様々な分野で連携を図り、誇りを持てる地域にしたい」と挨拶した。

これは地方の急激な人口減少に危機感を覚えた国が「地方において安心して暮らせる地域を各地に形成し、地方から都市への人口流出を食い止めると共に（中略）地方への人の流れを創出することが求められている。市町村の主体的取組として中心市の都市機能と近隣市町村の農林水産業、自然環境、歴史、文化など、それぞれの魅力を活用し、NPOや企業などの民間の担い手を含め、相互に役割分担し、連携・協力することで、地域住民のいのちと暮らしを守るべく圏域全体で必要な生活機能を確保し、地方圏への人口定住を促進する」ために総務省主幹で進めている。

作業部会では考えられるだけ事業を挙げ、今後は「懇談会」で絞り込んで事業化へ

構想のイメージは図の通りであり、新発田市はこれにそって昨年9月に「中心市宣言」をした。総務省のいう「都市機能」を新発田市が担い、「周辺機能」を胎内市と聖籠町が担うというもので、その後、新発田市・胎内市・聖籠町の担当者で作業部会を立ち上げた。

そして、協議の結果、胎内市・聖籠町と、それぞれ子育て・広域観光・地域公共交通・スポーツ振興・産学官連携など13項目に取り組むとして、このたび協定を締結したのである。協定の締結に必要な関連議案は各々の市町の9月定例議会で可決成立している。

今後は11月から、市民を交えて「定住自立圏共生ビジョン懇談会」を随時開催し、来年3月末までに「共生ビジョン」を策定する予定だ。

本紙として思い浮かぶ事業としては、最も大切なのは新発田市や聖籠町にある病院への公共交通の連携強化、圏域での松くい虫共同防除、圏域に「赤ちゃんの駅」を整備する、子育て支援カードの広域化、敬和学園大学と職能短大の学生と圏域企業のマッチングおよび共同研究、圏域にまたがる櫛形山脈のトレッキングコースの整備、佐々木氏一族の支配地の観光名所巡りなどの歴史ツアーの商品化、観光協会で行っているインターネット通販の広域化、東港へのクルーズ船誘致、エフエムしばたの胎内地区へのインターネット配信などがある。

実際に共有できる事業は限られる。資金は有効な事業に集中投下を

平成の大合併から10年たち、合併特例債期間は終了し、普通交付税は一本算定となって激減する状況の中で、公共施設の見直し・縮小が迫られている。一方では新発田市は頑張って転出超過は抑え込んだが自然減は止まらず、人口減少に歯止めがかかったとは言えない。足りない部分を補い合うというのは、自然の流れであろう。

しかし、立ち消えになった新潟州構想で分かるように、共同で行える事業、共同で使える施設はそう多くはないのである。例えば、スポーツ施設の共同利用などでは、大会は別として、普段は送り迎えの問題等もあり、現実的とは言えない。新発田市では転入者が増えているが、県外からというより、近隣市町からの転入が多いのも事実である。広域観光といっても、観光客のニーズは新発田市・胎内市・聖籠町の枠を超えて、佐渡と月岡、会津若松と新発田など、さらに広域化している。DMO（地域観光の担い手）との整合性が求められるゆえんだ。

とはいえ、事業実施にあたっては中心市には最大8千500万円、周辺市町には同1千500万円の特別交付税が交付されることになっている。構想の割には予算額が少ないのが気になるところであるが、数は多くなくてもよいので、真に有効な事業を立案、実施してもらいたい。また、3市町職員が不断に交流することで、職員の資質向上も期待できる。真摯な議論を望む。

定住自立圏のイメージ

第47回 全国うまいもん横丁
しばた発 日本を旅しよう!!
ZENKOKU UMAIMON YOKOCHO
入場無料
今年も新発田で日本全国の「うまいもん」を味わう旅をしよう！
今年の「うまいもん横丁」はスイーツコーナーのさらなる強化や駅弁・空弁も充実！
11月2日(水)～11月6日(日)
時間◎午前９時～午後４時30分
場所◎新発田市カルチャーセンター（〒957-0054 新発田市本町4-16-83）
―お問合せ―
（一社）新発田市観光協会
☎0254-26-6789
全国うまいもん横丁 検索
同時開催
● 城下町新発田菊花大祭
● 植木市

SOP
Sibata Orange Press
http://sop-web.com

バックナンバーは SOP ホームページ でご覧ください!!
新発田オレンジプレス 検索
〒957-0018
新発田市緑町2-6-45-7号棟
TEL.0254-20-7841
FAX.0254-20-7851